

HIROSHI OKUTANI



〈足摺遠雷〉1981年 神奈川県立近代美術館蔵

開館10周年記念

# 奥谷博展

現代の黙示録

1993年1月5日[火]—31日[日]

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 初日開館／午前11時 休館日／毎週月曜日

主催／奥谷博展実行委員会・刈谷市・刈谷市教育委員会・中日新聞社

後援／愛知県教育委員会

入場料／一般800円(600円)、学生〈小・中・高・大学生〉500円(300円)※( )は前売及び20名以上の団体料金

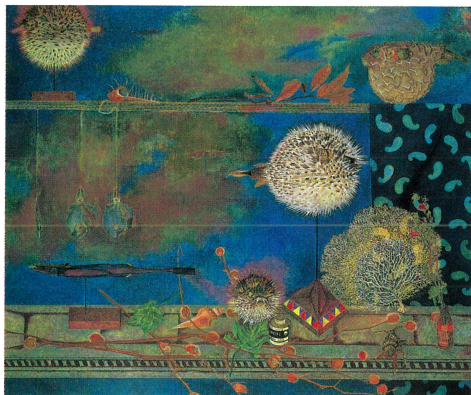
刈谷市美術館 愛知県刈谷市住吉町4-5  
☎(0566)23-1636

# 奥谷博展

## 現代の黙示録



〈おじいさん〉1962年



〈針千本〉1965年 東京国立近代美術館蔵



〈鏡の中の自画像と骨〉1975年 神奈川県立近代美術館蔵

このたび刈谷市美術館では、開館10周年を記念して〈奥谷 博展—現代の黙示録〉を開催いたします。

奥谷氏は、昭和9年(1934)高知県宿毛市に生まれ、昭和34年(1959)東京芸術大学美術学部油画科卒業後、専攻科に進学、林武に師事し、在学中より独立美術協会展を中心に精力的な活動を開始しました。昭和38年(1963)専攻科修了後、油画科副手、助手を経て、昭和41年(1966)愛知県立芸術大学講師に招かれ(昭和44年助教教授就任)4年間を名古屋で過ごしました。その間、昭和41年(1966)に第1回昭和会賞を受賞、独立美術協会会員に推挙され、翌42年(1967)には第1回文部省芸術家在外研修員に選ばれ渡仏、帰国後再びパリで制作をつけました。昭和45年(1970)からは作家活動に専念し、昭和58年(1983)芸術選奨文部大臣賞、翌59年(1984)第3回宮本三郎記念賞など数々の受賞を重ね、現在も具象絵画運動の中心的存在として活躍しています。

初期には、師・林武を想わせる厚塗りの作品を展開しますが、芸大助手時代ウッチェロのフレスコ画「サン・ロマーノの戦い」を模写したことを契機に、その鮮明で細密な表現に打たれ、厚塗りに薄塗りの描写へと作風を一転、今日につながる独自の画風を築きました。

この半世紀、人間をとりまく社会はかつてない進歩をとげると一方、人は現代に生きる様を見失い、人間存在そのものがあらためて問われています。とどまることのない現代に生きる画家として奥谷氏は、



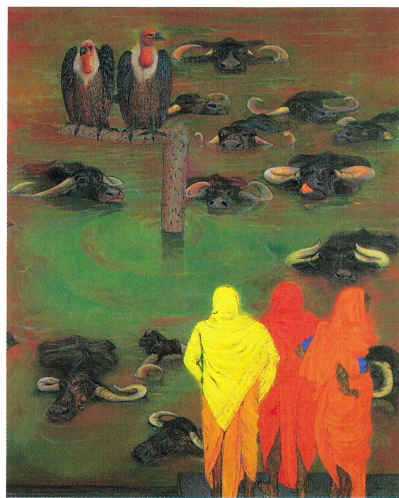
〈大地〉1978年



〈詩海〉1983年



〈春風(四部作IV)〉1990年



〈葬く黒い生(3点組の中央)〉1992年

人間の生と死をひたすらみつめつけ、描き出された風景、静物、人物画は、「生きる証<sup>あかし</sup>」そのものといえるものです。

本展は、東京芸術大学時代の「二十歳の自画像」から最新作「雫<sup>しずく</sup>」にいたる代表作品の大作を中心に油彩画70点、素描20点を展観し、奥谷氏の絵画世界を紹介いたします。

### 刈谷市美術館

- 所在地  
愛知県刈谷市住吉町4-5  
TEL(0566)23-1636
- 交通案内  
JR東海道本線・名鉄三河線  
「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分
- 駐車場  
45台収容可能(無料)

